

活動記録

1 規定等

(1) 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター規則

平成31年4月1日、規則第25号

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、四国遍路の歴史的諸相及び現代の多様な実態を学際的に解明し、日本及び世界各地の巡礼との比較研究を行うとともに、学術面から地域文化の発展に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第3条 前条の目的を達成するために、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 国内研究部門
- (2) 国際研究部門

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 兼任教員
- (3) 協力研究員
- (4) その他必要な職員(以下「センター職員」という。)

2 センターに、前項のほか、副センター長及び特定職員である教員を置くことができる。

(管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、愛媛大学地域協働推進機構地域協働推進会議(以下「推進会議」という。)において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(センター長)

第7条 センター長は、愛媛大学(以下「本学」という。)の専任の教授のうちから推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第8条 副センター長は、本学の専任教員又は特定職員である教員のうちから、センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(兼任教員)

第9条 兼任教員は、本学の専任教員及び特定職員である教員のうちから、センター長が当該教員の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年以内とし、再任を妨げない。
(協力研究員)

第10条 協力研究員は、本学の専任教員及び名誉教授のうちから、センター長が委嘱する。

2 協力研究員の任期は、2年以内とし、再任を妨げない。
(職務)

第11条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長が不在又は事故があるときは、その職務を代行する。

3 センターの特定職員である教員は、センター長の職務を助け、センターの業務を遂行する。

4 兼任教員は、センターの業務を遂行する。

5 協力研究員は、センターの業務に協力する。

6 センター職員は、センターの業務に従事する。

(客員研究員)

第12条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

(研究協力者)

第13条 センターに、研究協力者を置くことができる。

2 研究協力者は、センター長があらかじめ定めた期間、センターの研究活動を補助する。

3 研究協力者は、センターの研究に係る知識及び経験を有する者の中から、センター長が委嘱する。

(事務)

第14条 センターに関する事務は、地域協働支援部及び法文学部事務課において処理する。

(雑則)

第15条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。

2 愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター規程(平成27年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日より施行する。

(2) 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター運営委員会規程

平成31年4月1日制定・規則第26号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター(以下「センター」という。)の運営に係る基本事項に関すること。

(2) センターの予算及び決算に関すること。

(3) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長（副センター長を置く場合に限る。）
- (3) センターの特定職員である教員（特定職員である教員を置く場合に限る。）
- (4) センターの兼任教員 若干人
- (5) 地域協働支援部長
- (6) その他委員長が必要と認めたる者

2 前項第4号の委員は、センター長が指名する。

3 第1項第6号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

4 第1項第6号の委員の任期は、センター長の任期の末日を超えない範囲でセンター長が定めることとし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、地域協働支援部において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

2 愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター運営委員会規程（平成27年4月1日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日より施行する。

(3) 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター支援基金規程

平成31年4月1日・規則第27号

(設置)

第1条 愛媛大学に、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター支援基金（以下「四国遍路研究基金」という。）を置く。

(目的)

第2条 四国遍路研究基金は、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター（以下「センター」という。）の研究、教育、地域貢献の充実に資することを目的とする。

(事業)

第3条 四国遍路研究基金は、前条の目的を達成するための事業に充てる。

(基金の構成)

第4条 四国遍路研究基金は、四国遍路研究基金への寄附金をもって構成する。

(基金の管理運営)

第5条 四国遍路研究基金の管理運営に関する事項は、センター運営委員会の議を経て、センター長が決定する。

(寄附金の受入等)

第6条 四国遍路研究基金への寄附金の受入れ等に関しては、国立大学法人愛媛大学寄附金取扱規則の定めるところによる。

(事業年度)

第7条 四国遍路研究基金の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるものとする。

(事務)

第8条 四国遍路研究基金に関する事務は、地域協働支援部及び法文学部事務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、四国遍路研究基金に関して必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

2 愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター支援基金規程（平成29年1月18日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日より施行する。

(4) センター紀要投稿規程

1 四国遍路・世界の巡礼研究センターの発行する研究紀要『四国遍路と世界の巡礼』へ投稿できる原稿の内容は、四国遍路と世界の巡礼に関する研究論文、資料紹介、書評等とする。

2 投稿資格は、同センターの構成員（センター員、協力研究員）とする。但し、同センターの開催する研究会で報告するなどして、同センターから投稿依頼を受けた者も資格を有する。

3 同センター長は、本書の編集に関して、若干名の編集委員を指名して、編集を行うことができる。編集委員は年度毎に、予算の範囲で、本書の内容・分量を定め、編集を行い、投稿者に掲載の有無等を連絡する。

4 本文は、日本語の場合、A4縦判、横書き、10ポイント、48字×46行、9頁（400字詰原稿用紙50枚）以内とし、外国語や縦書き記載を希望する場合もこれに準じるものとする。但し、頁数は、編集上の理由で増減することがある。上記内容には、題名、著者名、所属、15～18行程度の英語要約文、参考文献、図表・写真、本文日本語訳等を含む。

5 要約文の締め切りは11月30日、本文の締め切りは1月10日を原則とする。締め切りの変更がある場合は、編集委員

から連絡する。

- 6 原稿は原則として、編集委員もしくは同センター宛に電子データをメールで投稿する（センターアドレス：henro_c@stu.chime-u.ac.jp）。
- 7 写真・図版の掲載許可は、著者が行い、掲載必要経費も著者が負担する。
- 8 原稿は原則として、本書刊行後、一定期間を経て、同センターホームページや愛媛大学図書館ホームページで公開するものとする。公開を希望しない場合は、事前に申し出るものとする。

附 則

本規程は、平成28年7月1日より施行する。

(5)『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会 普遍的価値の証明部会と国立大学法人愛媛大学 四国遍路・世界の巡礼研究センターとの連携協力に関する協定書 令和2年1月25日締結

『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会 普遍的価値の証明部会（以下「甲」という。）と、国立大学法人愛媛大学 四国遍路・世界の巡礼研究センター（以下「乙」という。）は、四国遍路の基礎研究や国内外の類似資産に関する資料収集や比較研究などを通じて、四国遍路の世界遺産登録に向けて協力するため、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は甲及び乙それぞれが有する知識や情報等を活用しながら、我が国を代表する巡礼文化である四国遍路の適切な保全を行い、四国の活性化を図るため、四国遍路の世界遺産登録を目指す活動に連携・協力して取り組むことを目的とする。

（連携協力事業）

第2条 甲及び乙は、前条の目的を実現するために、次に掲げる事項について連携し協力する。

- (1) 四国遍路の歴史や民俗など諸分野における調査研究に関すること。
- (2) 四国遍路の国内外の類似資産についての情報収集や調査研究に関すること。
- (3) 研究成果の公開や啓発活動による四国の地域活性化に関すること。
- (4) その他甲及び乙が必要と認めること。

（連携事業の実施）

3条 前条に掲げる事業等の具体的な実施に関しては、この協定に基づき、双方で協議して行う。

（秘密等の保持）

第4条 甲及び乙は、連携により知り得た秘密及び関係者の個人情報、相手方の事前の承諾なく第三者に提供若しくは漏洩し、又は第1条に規定する目的以外に利用してはならない。

2 甲及び乙は、この協定が次条の有効期間の満了又は第6条による解除により効力を失った後も、前項の規定による秘密保持等の義務を負う。

（協定の有効期間）

第5条 この協定の有効期間は、締結日から3年間とする。ただし、有効期間満了の日の30日前までに、甲又は乙のいずれからも申出がない場合は、さらに3年間延長するもの

とし、その後も同様とする。

（協定の解除）

第6条 甲及び乙は、相手方に対して30日前までに書面による通知をなすことにより、相手方に何らの責任を負うことなく本協定を解除できる。

（連絡窓口の設置）

第7条 甲及び乙の連携協力を円滑かつ効果的に推進するため、甲は『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会内に、乙は乙内に窓口を設置する。

（その他）

第8条 この協定に定めのない事項及びこの協定に関し疑義が生じた場合は、甲及び乙が誠実に協議の上、決定する。この協定の成立を証するため、本協定書を2部作成し、それぞれ1部を保有する。

令和2年1月25日

甲 『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会 普遍的価値の証明部会 部会長 笥 善行
乙 国立大学法人愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター センター長 胡 光

(6) 研究部門と構成員

二つの研究部門を設けて、連携をとりながら学際的共同研究と地域貢献を進める。法文学部本館2階の一室を共同研究室ならびに収蔵施設として利用する。

①国内研究部門

四国遍路や日本の巡礼の古代から現代までの歴史的諸相を、学際的に解明するとともに、現代遍路の多様な実態を社会学的調査などを用いて具体的に明らかにする。

〈歴史文化研究班〉

胡 光	法文学部（日本史）◎
中川 未来	法文学部（日本史）○
川島 佳弘	法文学部（日本史）
神楽岡幼子	法文学部（日本文学）
田中 尚子	法文学部（日本文学）
青木 亮人	教育学部（日本文学）*
内田九州男	愛媛大学名誉教授（日本史）*
寺内 浩	愛媛大学名誉教授（日本史）*
川岡 勉	愛媛大学名誉教授（日本史）*
西 耕生	法文学部（日本文学）*

〈現代社会研究班〉

中根 隆行	法文学部（比較文学）
兼子 純	法文学部（地理学）
石黒 聡士	法文学部（地理学）
野崎 賢也	法文学部（社会学）*
井口 梓	社会共創学部（観光文化論）*
大本 敬久	地域協働推進機構（民俗学）
竹内 康博	愛媛大学名誉教授（民法）*
竹川 郁雄	愛媛大学名誉教授（社会学）*

②国際研究部門

世界各地に数多く存在する巡礼の歴史や現在の実態を明らかにするとともに、四国遍路との国際比較を行う。

高橋 弘臣	法文学部（アジア史）○
水野 卓	法文学部（アジア史）

齋藤 貴弘 法文学部 (西洋史)
 田島 篤史 法文学部 (ドイツ文化)
 林 孝弘 法文学部 (西洋史)
 森 貴子 教育学部 (西洋史)
 山川 廣司 愛媛大学名誉教授 (西洋史) *
 加藤 好文 愛媛大学名誉教授 (英米文化) *
 吉田 正広 愛媛大学名誉教授 (西洋史) *
 菅谷 成子 愛媛大学名誉教授 (東南アジア史) *

【註】◎センター長、○副センター長

無印：兼任教員、*協力研究員 (12.31現在)

〈運営委員会〉

胡光 (委員長)、高橋弘臣、中川未来、川島佳弘、
 久保秀二 (地域協働支援部長)

2 活動記録と社会の動き

【令和6年1月1日～12月31日】

前年8月5日～3月22日 愛大ミュージアム「日本の巡礼と
 世界の巡礼」主催

1月7日 学長挨拶 (胡・中根)
 1月9日 韓国全南大学校金容儀教授のセンター訪問に対応
 (胡・中川・川島)
 1月9日 松山市文化財保存活用計画協議会 (胡) 松山市
 1月10日 シンポジウム「宇和島闘牛を未来につなぐ」総合
 討論コーディネーター・報告「闘牛の歴史・文化・伝統—
 今後の価値創造に向けて—」(大本) 宇和島市
 1月11日 空間美学講座「四国遍路の世界」(胡) 松山市
 1月13日 第11回全国史料ネット研究交流集会ポスターセッ
 ション「愛媛資料ネット 記録と記憶—歴史資料を守るた
 めに—」(大本) 神戸市
 1月15日 教育研究評議会 (胡・中根)
 1月16日 石手寺調査 (胡ほか) 松山市
 1月16日 地方史研究協議会 (胡) オンライン
 1月24日 地域協働推進会議 (胡)
 1月25日 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター公開
 シンポジウム「写し霊場と地域社会」/於今治地域地場産
 業振興センター/当センター主催/今治市・Town & Gown
 構想推進室共催/伊予大島准四国霊場会・島四国心のふる
 さと会後援/門田岳久 (立教大学)「写し霊場の広がり」/
 大本敬久「四国遍路文化と愛媛の写し霊場」/松花菜摘
 (村上海賊ミュージアム)「大島島四国の歴史と新発見史料
 について」/コーディネーター 胡光/司会 中川未来/58名
 1月27日 三津浜旧家調査 (胡・中川・川島) 松山市
 1月29日 大洲市教育委員会来訪 (胡・中川)
 2月5日 伊予市文化財保護審議会 (胡)
 2月6日 新居浜市来訪 (胡)
 2月7日 香川県庁協議 (胡) 高松市
 2月12日 教育研究評議会 (胡・中根)
 2月14日 大野原郷土史講座「写し霊場」(胡) 観音寺市
 2月14日 世界遺産推登録推進協議会 (胡) 高松市
 2月15日 四国遍路世界遺産登録推進協議会シンポジウム
 (胡) 高松市
 2月17・18日 佐多岬半島ミュージアム調査 (胡・川島ほか)
 2月19・20日 愛媛県歴史文化博物館調査 (胡ほか)

2月26日 西予市・卯之町町並み保存会主催「町並みの観光
 とこれから」コーディネーター(大本) 西予市
 2月26日 新居浜市来訪 (胡)
 2月27日 國學院大學観光まちづくり学部学芸員実習 (外部
 授業)「卯之町の歴史とまちづくり」(大本) 西予市
 2月28日 香川県文化財保護審議会 (胡) 高松市
 3月1日 地域再生塾「歴史・文化を活かした地域づくりの
 可能性」講師 (大本) 松山市
 3月2日 宇和島NPOセンター主催「地域の宝を語り継ご
 う」ファシリテーター(大本) 宇和島市
 3月5日 機構長協議 (胡)
 3月5日 新居浜市来訪 (胡)
 3月6日 大洲市史会議 (胡)
 3月10日 『四国遍路と世界の巡礼—最新研究にふれる八十
 八話—』刊行 (後掲)
 3月12日 新谷コミュニティセンター歴史文化講演会「四国
 遍路文化と大洲・新谷—世界遺産登録に向けて—」(大本)
 大洲市
 3月12日 教育研究評議会 (胡・中根)
 3月13日 香川県立ミュージアム運営会議 (胡) 高松市
 3月16日 石手寺調査 (田島) 松山市
 3月18日 光教寺 (坪ヶ谷新四国第一番)・宇和民具館・愛
 媛県歴史文化博物館調査 (田島) 西予市
 3月19日 世界遺産登録推進協議会 (胡) 高松市
 3月19～22日 高知県史調査 (胡) 高知市
 3月23日 ミュージアム展示撤収 (胡ほか)
 3月25日 『四国遍路と世界の巡礼』10号刊行 (後掲)
 3月26日 教育研究評議会 (胡・中根)
 3月27日 細川家文書科研究研究会 (胡) オンライン
 3月29日 「愛媛県における歴史公文書の保存活用の現状と
 課題」(大本) 松山市
 3月31日 栗林公園会議 (胡) 高松市
 4月1日 辞令交付 (胡ほか)
 4月2日 伊予銀行地域文化会議 (胡・大本) 松山市
 4月2日 南海放送取材 (胡)
 4月4日 地藏寺・徳島城・徳島県立博物館協議 (胡)
 4月5日 米博×南予×愛大公開トークセミナー2025春 講
 座「四国遍路と南予・卯之町—世界遺産登録に向けて—」
 (大本) 西予市
 4月5・6日 福岡市博物館調査 (胡) 福岡市
 4月7日 公開講演会「サンティアゴ巡礼と四国遍路」/於
 法文学部大会議室/センター主催/法文学部、人文学会共
 催/スペイン大使館後援/ホセ・トノ・マルティネス (コ
 ンプルテンセ大学講師)「聖ヤコブの道—神話と象徴」/胡
 光「四国遍路とサンティアゴ巡礼」/74名参加
 4月9日 教育研究評議会 (胡・中根)
 4月10日 旧家俳諧資料調査 (寺内) 今治市
 4月11日 久松常盤会来訪 (胡)
 4月15日 北条ふるさと館講座「弘法大師空海の生涯」(大
 本) 松山市
 4月17日 砥部町来訪 (胡)
 4月18日 地域協働推進会議 (胡)
 4月21日 丸亀城跡調査整備会議 (胡) 丸亀市
 4月23日 愛媛新聞取材 (胡)
 5月2日 学部長協議 (胡)

- 5月7日 愛媛県庁来訪(胡)
- 5月9～11日 高知県史調査(胡) 高知市
- 5月12日 学長協議(胡)
- 5月14日 教育研究評議会(胡・中根)
- 5月14日 愛媛新聞取材(胡)
- 5月16日 伊予銀行地域文化会議(胡・大本)
- 5月16日 愛媛新聞取材(胡)
- 5月17日 石手寺空海講座参加(胡)
- 5月19日 共同通信取材(胡)
- 5月22日 久松家資料記者会見(胡) 松山市
- 5月23～6月1日 旧松山藩主久松家歴史資料速報展(胡ほか) 於愛媛県美術館主催/当センター・愛媛県・久松常盤会主催
- 5月24日 道後ドイツフェスタ2025開催(田島) 松山市
- 5月25日 現代民俗学会2025年度年次大会シンポジウム「博物館・大学の地域連携活動におけるまち歩きの可能性」(大本) 東京都
- 5月25日 神戸大学科研会議(胡) オンライン
- 5月26日 香川県立ミュージアム講演(胡) 高松市
- 5月28日 松平公益会会長面談(胡) 高松市
- 5月30日 香川県庁協議(胡) 高松市
- 5月30日 神戸大学科研会議(胡) オンライン
- 6月3日 北条ふるさと館講座「風早出身・別当大師光定と弘法大師空海」(大本) 松山市
- 6月7日 松山商工会議所歩き遍路講座(胡) 松山市
- 6月11日 高松城整備委員会(胡) 高松市
- 6月12日 ミュージアム運営会議(胡・中川)
- 6月13日 大洲市教育委員会来訪(胡・中川)
- 6月19日 高知県宿毛市愛媛県南宇和郡愛南町篠山小中学校組合立篠山小中学校「篠山校区の文化遺産―四国遍路―」(大本) 愛南町
- 6月20日 地域協働推進会議(胡)
- 6月20日 *国史跡「遍路道」の追加指定答申(圓明寺・大興寺・曼荼羅寺・出釈迦寺・根香寺・大窪寺)
- 6月21日 「吉田祭のお練り行事」重要無形民俗文化財指定記念シンポジウム「吉田祭のこれから」コーディネーター(大本) 宇和島市
- 6月24日 地域協働教育研究報告会(胡)
- 6月27日 へんろ資料館運営会議(胡) さぬき市
- 7月3日 四国遍路史料集会議(胡・大本) 松山市
- 7月4日 新居浜市来訪(胡)
- 7月9日 教育研究評議会(胡・中根)
- 7月11日 神戸大学科研会議(胡) オンライン
- 7月12日 愛媛県教育委員会民俗文化財継承研修会 えひめの民俗を伝え残すために「愛媛における無形民俗文化財の映像記録と今後の活用」(大本) 松山市
- 7月13日 神戸大学科研会議(胡) オンライン
- 7月14日 新居浜市史部会会議(胡) 新居浜市
- 7月16日 四国遍路世界遺産登録推進協議会(胡) 徳島市
- 7月17日 今治市来訪(胡)
- 7月17日 ミュージアム展示協議(胡)
- 7月18日 香川県庁協議(胡) 高松市
- 7月20日 香川歴史学会総会(胡) 高松市
- 7月24日 大成建設来訪(胡)
- 7月24日 伊予市旧家調査(胡) 伊予市
- 7月25日 世界遺産登録推進協議会(胡) 高松市
- 7月30日 ひめぎん情報センター来訪(胡)
- 8月3日 宇摩史談会「四国中央市の災害史―地震・水害―」(大本) 四国中央市
- 8月3日 ミュージアム展示陳列(胡ほか)
- 8月4日 ミュージアム展示開始「遍路案内記の世界」(後掲)
- 8月5日 北条ふるさと館弘法大師と四国遍路講座「空海の著作『三教指帰』を読む」(大本) 松山市
- 8月5日 香川県文化財保護審議会(胡) 高松市
- 8月6日 愛媛県庁来訪(胡)
- 8月9～12日 石川県珠洲市調査(胡) 石川県
- 8月19日 機構長協議(胡)
- 8月20日 愛媛県札所調査委員会(胡) 松山市
- 8月23～24日 熊本大学科研会議(胡) 熊本市
- 8月25日 学長賞授与式(胡)
- 8月26日 四国遍路史料集会議(胡) 松山市
- 8月28日 愛媛県庁来訪(胡)
- 8月31日 東予コミュニティカレッジ歴史講座「過去の南海トラフ地震―東予地方の被害を知る―」(大本) 新居浜市
- 9月1日 栗林公園会議(胡) 高松市
- 9月1日～3日 ミュージアム博物館実習(胡・中川・川島ほか)
- 9月4日 人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」歴博拠点2025年度研究会「災害史研究成果の活用と文化財防災ネットワークの構築―愛媛県の事例―」(大本) 三重県
- 9月5日 愛媛資料ネット総会(胡・中川・川島ほか)
- 9月8日 南海放送取材(胡)
- 9月10日 教育研究評議会(胡・中根)
- 9月13日 西条中央公民館講座(胡) 西条市
- 9月16日 大洲市史編集委員会(胡・寺内・大本) 大洲市
- 9月17日 全国磁気学会講演(胡) 南加記念ホール
- 9月18日 高齢者大学校講演(胡) 松山市
- 9月19～23日 高知県史調査(胡) 高知市
- 9月24・25日 高松市調査(胡ほか) 高松市
- 9月26日 神戸大学科研会議(胡) オンライン
- 9月27日 愛媛大学退職教員の会主催講演会「四国遍路と世界の巡礼」にて講演「西欧キリスト教世界における巡礼と奉納文化―ボーゲンベルクの聖母と蠟燭巡礼―」(田島) 「四国遍路の世界」(胡) 松山市
- 9月28日 第42回歴史地震研究会(豊岡大会)「宝永・安政・昭和南海地震における道後温泉(愛媛県)の湧出停止・再開経過」(大本) 兵庫県
- 9月30日 松平家資料調査会議(胡) 高松市
- 10月1日 白石ノ鼻(白石龍神社)調査(田島) 松山市
- 10月2日 ミュージアム運営会議(胡・中川)
- 10月3日 伊予銀行地域文化会議(胡・大本) 松山市
- 10月6日 伊予市立図書館調査(胡) 伊予市
- 10月7日 北条ふるさと館弘法大師と四国遍路講座「空海の著作『性霊集』を読む」(大本) 松山市
- 10月8日 教育研究評議会(胡・中根)
- 10月10日 香川県立ミュージアム運営会議(胡) 高松市
- 10月22日 砥部町来訪(胡)

- 10月23日 地域協働推進会議(胡)
- 10月25日 松山道前会講演(胡)松山市
- 10月25~26日 第1回医療知史研究会開催・研究発表(題目:前近代ドイツ語圏における「迷信的」医療と奉納物)(田島)松山市
- 10月29日 愛媛県庁来訪(胡)
- 11月1日 公開講演会・シンポジウム「空海の史実・弘法大師の真実」主催 南加記念ホール/開会挨拶 杉森正敏(理事・副学長、地域協働推進機構長) 胡光(センター長)/「空海・弘法大師の幼少期について」渋谷啓一氏(文化庁主任文化財調査官)「空海と辺地修行」/寺内浩氏(愛媛大学名誉教授/前センター長)/「空海の姿(御影)について」三好賢子氏(香川県立ミュージアム学芸課長)/シンポジウム司会 大本敬久/閉会挨拶 井口秀作(法文学部長)会場130名、オンライン48名参加
- 11月6日 伊予銀行地域文化会議(胡・大本)
- 11月8日 神戸大学科研会議(胡)オンライン
- 11月9日 砥部町講演(胡)砥部町
- 11月12日 教育研究評議会(胡・中根)
- 11月13日 愛媛県歴史文化博物館運営会議(胡)
- 11月14日 ドイツ総領事訪問対応(田島)
- 11月19日 東京大学史料編纂所来訪(川島)
- 11月22日 放送大学式典 遍路センター解説(胡)
- 11月28日 松山大学講演(胡)松山市
- 11月29日 「文化財フェア2025」ステージ出演(大本)松前町
- 12月2日 北条ふるさと館弘法大師と四国遍路講座「四国遍路の成立—古代・中世—」(大本)松山市
- 12月4日 共同通信取材(胡)
- 12月8日 新居浜市来訪(胡)
- 12月10日 大洲喜多経済研究会令和7年12月定例会「災害の歴史に学ぶ—大洲・喜多の地震・水害史—」(大本)大洲市
- 12月10日 教育研究評議会(胡・中根)
- 12月11・12日 松平家資料調査(胡ほか)高松市
- 12月14日 歩き遍路授業(胡、中川、川島、大本、田島、寺内ほか)松山市
- 12月20・21日 高知県史調査(胡)高知市
- 12月21日 砥部歴史探訪「奈良・平安時代の砥部町域の歴史・文化」(大本)砥部町
- 12月22日 世界遺産研究協議会「四国遍路の世界遺産化に向けた取り組み」(胡)東京都
- 12月24日 世界遺産登録推進協議会(胡)オンライン

【論考・刊物】令和7年1月~12月

- 胡光「巡礼遍路研究会の存在価値」『巡礼遍路研究』10、2/21
- 胡光『阿波国小松島浦国伝山地蔵寺総合調査報告書』当センター、3/25
- 胡光、大本敬久ほか『大洲市内絵馬調査報告書』大洲市教育委員会、3/28
- 胡光「四国遍路研究の現在地」『山岳修験』76、11/15
- 大本敬久「道後温泉と『病災』の歴史・民俗」『2024年度湯築城歴史塾要旨集「温湯のある風景」』3/1
- 大本敬久「能登半島地震による文化財等の被災・復旧状況」『愛媛資料ネット会報 記録と記憶』37、3/31

- 大本敬久他『新たな社会の創発を目指して vol.4 地域の歴史・文化とアーカイブズ~博物館の活動を中心に~』国立歴史民俗博物館(担当部分:西日本豪雨からの復興と地域文化の再構築)6/1
- 田島篤史編著『魔女を糺す—中・近世ドイツの法実践と悪魔学—』森と出版、3/31
- ▼『四国遍路と世界の巡礼(下)—最新研究にふれる八十八話—』創風社出版、3/10
- 青木亮人「愛媛の椿堂と曼殊沙華」「香園寺の種田山頭火」「香園寺の河村みゆき」「霧と饅頭」/胡光「神社も巡った江戸時代の遍路」/大本敬久「現代も続く『行き倒れ遍路』の供養」「大島の島四国と『お接待』・『善根宿』」/加藤好文「アメリカ・マンザナル巡礼」/川島佳弘「西園寺源透の四国遍路資料調査」/齊藤貴弘「イストモス「巡礼」—ソクラテス唯一の外遊—」/竹川郁雄「質問紙調査から見るお遍路さんの信仰心」/田島篤史「ドイツ語圏の巡礼—アイヒシュテットに眠る聖女とヴァルブルグスの夜—」「聖ヴォルフガング巡礼—伝説と史実のはざまで—」「ザンマライの聖母」/寺内浩「古代の辺地修行者と地域の人々」「空也と辺地修行」/中川未来「映像資料にみる四国遍路」「四国遍路と「徘徊浮浪」へのまなざし」/中根隆行「戦後日本における遍路の記憶—『砂の器』の本浦父子像」「お四国なさる—旅と遍路の近代—」/西耕生「「花の下」の蹴鞠—異本『狭衣』にみる『源氏』の受容—」「平安期の女性の「山踏み」—かな文学作品にみる実相—」「オダマキと呼子鳥—室町期における『狭衣』受容の一節—」/吉田正広「ロンドンの戦争記念碑—巡礼と市民的愛国心—」「イギリスのカンタベリー巡礼と20世紀演劇」(センター員のみ抜粋)
- ▼『四国遍路と世界の巡礼』10、3/25
- 刊行の辞 胡光 ◆特集「四国遍路の普遍的価値を考える」/門田岳久「四国遍路の普遍的価値と『フルストーリー』:佐渡金山との比較に基づく世界遺産と歴史表象」/大本敬久「救済の場としての四国遍路」/中川未来「日本近代の移民・植民と移植された聖地」/甲斐未希子「四国遍路の普遍的価値によせて」◆論考四国遍路編 川島佳弘「四国遍路と中世城館」/山形隆司「廻国行者による四国遍路」/浅川泰宏「近代四国霊場の組織化」◆活動記録
- ▼愛媛大学ミュージアム「遍路御案内記の世界」8/4~1/10/カトリックにおける聖母マリア崇敬と巡礼(田島篤史)/ロンドンのポップラー地区におけるキリスト教会と戦争記念碑(吉田正広)/テレビがうつす四国遍路(中川未来)/モートン・コレクション(胡光)/小松島市地蔵寺の総合調査(胡光)/遍路案内記の世界(胡光ほか)
- ▼『月刊インタビュー』(ナレーション社)「四国遍路と世界の巡礼~愛大研究センター通信~」連載
- 21西耕生「「山ふみ」と「山ふし」」『月刊インタビュー』187、1/20/22中根隆行「五木寛之と四国遍路」同前/23川島佳弘「弥谷寺と天霧城」同誌188、3/20/24林孝洋「国民の聖地を創建する—近現代イタリアにおける国民的巡礼」同前/25寺内浩「空海と満濃池修築」同誌189、5/20/26浅川泰宏*「熊野古道とカミーノのデュアル巡礼」同前/27井口梓「「生きている文化遺産」四国遍路と地域づくり」同誌190、7/20/28青木亮人「台湾花蓮市、旧吉野村の写し霊場について」同前/29三好賢子*「法然

寺の立体涅槃群像」同誌191、9/20/30胡光「四国遍路とサンティアゴ巡礼」同前/31田中尚子「歯長寺縁起」と軍記物語」同誌192、11/20/32松岡明子*「根香寺に築かれた玉垣から見えてくるもの」同前

▼朝日新聞「しこく遍路考」連載（胡光）

三聖地がセット、観光案内図（1/14）、修行から巡礼へ、旅人導く道指南（2/3）、発展する写し霊場の形（3/3）、巡礼のパスポート、廻り手形（4/7）、神と仏、巡礼に終わりなく（5/5）、地藏寺、町や商人とともに発展（6/2）、藍商人の財力、郷土画家育む（7/7）、結願の寺語る二つの由緒書（9/8）、石手寺の「刻板」松平家説も（10/6）、道指南歌舞伎に影響（11/3）、空海から弘法大師、物語誕生（12/8）

▼愛媛銀行『ひめぎん情報』「四国霊場を歩く」連載（胡）

阿波路の霊場を歩くー四国最大の都市・徳島城下町を通して（304、1/）／阿波路の霊場を歩くー空海の修行地・最古の遍路道（305、6/）

【註】*印は、センター外の協力者。

【研究・活動助成ならびに運営】

- 科学研究費基盤研究（B）「霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究」（研究代表者：胡光、研究分担者：西耕生、中川未来、青木亮人ほか、研究協力者：内田九州男、寺内浩、竹川郁雄、川岡勉、神楽岡幼子、川島佳弘、大本敬久ほか）～3/31
- 学長裁量経費「海の遍路道調査研究活用事業」（研究代表者：胡光、研究分担者：中川未来・川島佳弘）～3/31
- 学長裁量経費「タウンガウン構想の実質化事業」（研究代表者：胡光、研究分担者：中川未来・川島佳弘）～3/31
- 公益財団法人松平公益会（高松市）
- 一般財団法人久松常盤会（新居浜市）
- 愛媛大学四国遍路と世界の巡礼研究会を通じた一般の方からの寄付金
- 愛媛大学基金への一般の方からの寄付金
- 愛媛大学人文学会
- 愛媛大学法文学部
- 愛媛大学地域協働推進機構



▲1月25日公開シンポジウム



▲4月7日公開シンポジウム



▲11月1日公開シンポジウム（1）



▲11月1日公開シンポジウム（2）

執筆者一覧

ホセ・トノ・マルティネス（人類学者、哲学博士、雑誌『ラ・ルナ・デ・マドリード』元編集長、

マドリード・コンプルテンセ大学他現代文化専攻修士課程教授）

渋谷 啓一（文化庁主任文化財調査官）

寺内 浩（愛媛大学名誉教授／協力研究員）

三好 賢子（香川県立ミュージアム学芸課長）

大本 敬久（愛媛大学地域協働推進機構特定准教授／協力研究員）

松花 奈摘（今治市村上海賊ミュージアム学芸員）

【編集後記】

皆さまのご支援により発足11年目を迎えた四国遍路・世界巡礼研究センターでは、2025年4月にホセ・トノ・マルティネス先生を、9月には文化庁の渋谷啓一先生をそれぞれお迎えして公開講演会を開催しました。本号では、その内容を「講演録」「特集」としてまとめました。また、1月に今治市と愛媛大学Town&Gown構想推進室の共催にて開催した公開シンポジウム「写し霊場と地域社会」の成果も掲載することができました。例年とは少し違う構成となりますが、紀要も新たな十年紀を刻むにあたり、少しずつ変化をもたせたいと考えています。

なお、従来から紀要掲載の論考は「愛媛大学機関レポジトリ」で公開してきましたが、この度定期刊行の実績が認められ、世界で唯一の永続的なIDとなるDOIが付与されることになりました（過去に掲載された論考にも遡及して付与）。長期的なアクセスが保証され、より確実な成果の発信が可能となります。これも論考をお寄せいただいた皆様のご助力、そして各位からのご支援あつての賜物です。ありがとうございます。

さて、例年この場を借りてご報告している「歩き遍路」授業ですが、今年度も12月14日に無事実施することができました。大本敬久先生にご案内いただき、松山市北条の西ノ下大師堂から逆打ちで粟井坂大師堂、堀江駅前毘沙門堂、53番札所円明寺、52番札所太山寺をめぐり、愛媛大学城北キャンパスまでの約24キロを歩き通しました。学座では個性の見えにくい学生たちも、「歩き遍路」では持参した飴を他の参詣者に「お接待」するなど、普段とは異なる生き活きとした姿を見せてくれたことが印象的です。また道中では遍路道標とともに享保の大飢饉の慰霊碑も確認することができ、歩くことで見えてくる重層的な「記憶のかたち」を体感した次第です。

最後となりますが、刊行にあたり今年度も英文要約を御担当いただいたモートン常慈氏、また公開講演会でのスペイン語通訳と本号掲載論考の翻訳でお世話になった問屋正勝氏（元四国四県・ガリシア州交流コーディネーター）をはじめ、編集と印刷に御尽力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。（中川未来）

*表紙の写真：「地の果てフィレステーレ岬に沈む夕日」（胡光氏提供）

*本誌は、愛媛大学法文学部共通経費の配分によって刊行した。

四国遍路と世界の巡礼 第11号

発行日 2026年3月25日 発行

編者 愛媛大学 四国遍路・世界の巡礼研究センター
センター長 胡 光

編集委員 中川未来
川島佳弘

発行者 愛媛大学 四国遍路・世界の巡礼研究センター
センター長 胡 光

〒790-8577 松山市文京町3 TEL&FAX 089-927-9312

E-mail: henro_c@stu.ehime-u.ac.jp URL: <https://henro.ll.ehime-u.ac.jp>

印刷 アマノ印刷

〒790-0932 松山市東石井一丁目10-30 TEL 089-956-2442